

志す宇宙は無限 9月号

発行：楠隼高等学校 宇宙部

古川宇宙飛行士 2度目の宇宙へ

日本時間8月26日に日本人宇宙飛行士の古川聡さん(59)らが搭乗する民間の宇宙船がアメリカ・フロリダ州から打ち上げられ、12分後に国際宇宙ステーションに向けた予定の軌道にのり、打ち上げは成功した。

打ち上げは、当初25日の予定だったが、アメリカ航空宇宙局は宇宙船の装置の一部を確認する作業に時間が必要だととして、延期していた。今回は2度目の宇宙飛行で、今年3月、地球に帰還した若田光一さんと並んで日本人として最高齢での宇宙飛行となる。

古川さんは打ち上げ後、「日本の皆さん、国際宇宙ステーションへ再び出張して、着実に仕事をしていきます」と宇宙船から日本語で語った。宇宙で貴重な水を再利用する新技術の実証や、将来の月や火星での滞在を見据えた研究などに取り組む予定。日本企業が開発した、洗濯しなくても清潔に着用できる衣服などの生活用品も宇宙空間で試す。医師としての研究も行う。

古川さんが搭乗したクルードラゴンはアメリカの起業家イーロン・マスク氏のスペースXが開発した宇宙船。企業主体で開発した宇宙船として2020年に世界で初めてISSに宇宙飛行士を届けた。

宇宙日記

8月13日にやぶさめの里総合公園で、ペットボトルロケットコンテストが初めて開催された。小学2年生から5年生まで約15名が参加。助っ人として、楠隼中高宇宙部からも3名が参加した。進行はよしもと芸人の飯屋竹洋さんが務めた。

当日は、お互いに教えあったり試行錯誤をしたりして約2時間かけて思い思いのロケットを作り上げた。講師の方に「スイングテスト」をしてもらい合格をもらえた小学生は達成感に満ちていた。

好天に恵まれたため、午後からは、やぶさめの里総合公園内のグラウンドで打ち上げ実験を実施した。最初に楠隼宇宙部のモデルロケットの打ち上げのデモンストレーションを行い、歓声が上がった。その後はコンテストが行われた。上位者には豪華賞品が準備され、参加者は優勝を目指して奮闘していた。

ペットボトルに入れる水の量によっても飛行距離が変わることに気づいた小学生も多く、多く入れたときと少なく入れたときの飛行距離の差を考える様子も見られた。最高飛行距離は63メートル。最高飛行距離を出した男の子に秘訣を聞くと「ペットボトルの中に葉を入れた。この葉が何の役に立つのかはわからないが、最高飛行距離であることには変わりはない。『葉』が重要だ」と熱烈に話した。これを聞いていた、別な男の子が試してみた結果、本当に飛行距離が伸びたという。小学生らしいユニークな創造力を垣間見ることができた。

私たちが作っているモデルロケットも今回作ったペットボトルロケットも、本物のロケットも推進力の生み出し方が異なるだけで、原理的には変わらないことを教えると「ロケットだ。」と嬉しそうだった。

宇宙に近い町に住む小学生だが、宇宙に触れる機会はかなり少ない。このペットボトルロケットコンテストをきっかけに、宇宙に興味を持ってもらえることができれば幸いだ。今後もこのようなペットボトルロケットコンテストが開催され、より多くの子供たちに宇宙の身近さを感じてほしい。



宇宙の豆知識

『一年より長い一日』

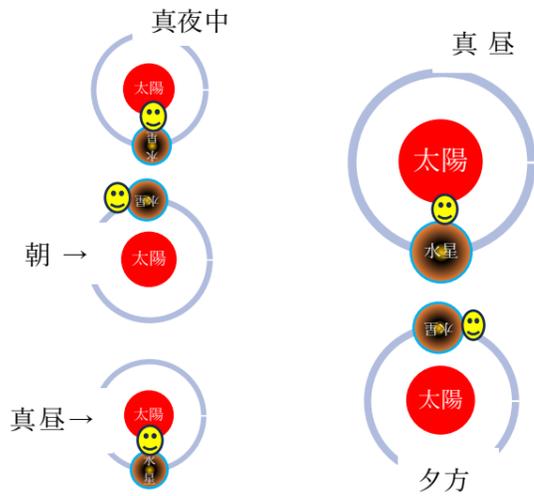
太陽系の中で最も太陽に近い惑星である水星についての豆知識です。

水星はたぐさんのクレーターに覆われていることが分かっています。しかし、水星には大気がなく、火山活動など惑星内部による活動もありません。そのため、風化も表面が更新されることもなく、約46億〜40億年に隕石が降り注いだときにできたクレーターがほぼそのまま残っています。

自転周期は地球時間で約59日、公転周期は約88日。しかし、水星では一日が一年より長いとされています。

一日の長さは太陽が南の空に一番高く昇る時刻(南中)から、次の南中までの時間を指します。

すると水星は次の南中までに太陽を2周することになり、水星の一日は水星の二年、地球時間に換算すると176日となります。つまり、水星の一日は一年より長いということなのです。



宇宙からのささやき

宇宙でしか見つけられない答えが、あるから。

古川宇宙飛行士 ISS 長期滞在ミッションコンセプト

世界のために、日本のために、様々な発見につながることを願っています。
地球から応援しています! 頑張れ 古川宇宙飛行士!!

記事募集中!!

「こんな記事を書いてほしい」、「これを取り上げてほしい」など記事の材料を募集しています。皆さんと一緒にこの宇宙部の壁新聞を作り上げていきたいと考えています。ぜひご協力ください。そして、これをきっかけに宇宙について興味関心を持ってもらいたいです。来月は宇宙関係を学んでいる卒業生の記事を取り上げようと考えています。お楽しみに!!

楠隼高等学校 宇宙部

宇宙の声

9月に入りましたが、まだ暑い日々が続いています。そして9月と言えば台風シーズン。肝付町は台風に近い傾向にあり、毎年のように大規模な停電が発生したり、多くの場所で土砂崩れが起きたりしています。楠隼も台風の被害を受けやすいです。私は楠隼での暮らしが5年目になりましたが、2年に1回は24時間以上の停電を経験している気がします。楠隼は停電になると水すら出なくなり、食事も非常食です。つらいですが、皆で何とかする姿は楠隼生らしさを感じます。そして何より、毎日使っている水や電気のありがたさを感じます。

9月1日は防災の日。そして今年は関東大震災から100年、鹿児島県民は8.6水害から30年と防災について考えるきっかけが多いです。皆さんは非常食を常備しているでしょうか。毎年のように起こる災害ですが、つい人ごとのように感じてしまいます。非常食を準備するのは、何とも地味で面白くないから、なかなか普及が進まない気がします。そこで、宇宙食を非常食として常備するのはどうでしょうか。宇宙食は長期保存が可能です。手軽に食べられるように設計されています。この宇宙食は、非常食にピッタリではないでしょうか。

もし災害が起きず、賞味期限が来てしまったとしても、めったに食べることはない宇宙食なら、家族で楽しく食べることができると思います。現在は宇宙飛行士が飽きないように宇宙食もたくさん開発されています。それらをうまく活用すれば、肝付町らしい災害対策につながると思います。備えが大切です。